

富士へ夫婦登山14年

世界文化遺産登録後、初の山開きを迎えた富士山。東京都小平市の村山元さん(78)と妻の香代子さん(71)は今年も一緒に登り、山頂でそろってご来光を拝んだ。元さんの誕生日である1日の登頂を目指し、二人三脚の富士登山を毎年続けて14回目。結婚48年目のおしどり夫婦は「健康を保つきっかけを作ってくれた富士山に感謝したい」と語り、麓へと向かった。

〈関連記事1面〉

前日の30日、山梨県の吉田口登山道5合目から入山した2人は8合目の山小屋

富士山に登る村山元さん、香代子さん夫妻。夫の元さん(左)が後方を歩き、妻を見守る(6月30日、山梨県富士吉田市の吉田口登山道で)＝富田大介撮影



夫の誕生日に毎年「健康のバロメーター」

た。雲の切れ間から太陽の光を見た2人は「今年はいつもの丸い太陽とは違ったね」と語りながらも、笑顔を交わした。

夫婦の富士登山は、元さんが一線を退いた65歳の誕生日からスタート。以来、元さんはスポーツクラブで週3回汗を流し、香代子さんも東京都の高尾山に毎月登ったり、自宅のウォーキングマシンでトレーニングしたりしている。「富士登山は2人の健康のバロメーター」と元さんは話す。

ゆっくり登る香代子さんを、元さんが後ろから見守るのが2人の富士登山スタイルだ。元さんは毎回登頂しているが、香代子さんは半数程度。成功しなかった場合は山小屋で元さんを待ち、2人で下山する。

元さんが最も美しいと感じたのは、2004年に本8合目の山小屋から2人で拝んだご来光。太陽がきれいな円を描き、空が赤とオレンジ色に染まった。その光景は携帯電話の待ち受け画面になっている。

たことで、今年はいつもの山頂の人数が多いと感じた。ただ、元さんは「自分たちにとって、富士山の魅力は登録前と何も変わらな

夫婦は下山後、いつもの